

富津市第3次基本計画

富津市基本構想では、都市像を「躍動とにぎわい 安らぎとふれあいの交差するまちふっつ」と掲げています。

第3次基本計画でもこの都市像は土台に据えていきますが、そのうえで、計画期間5か年間のまちづくりにあたっては、政策の推進テーマを設定し、その実現に向け特に、緊急かつ重点的に取り組むべき課題を明示し、財政状況や社会環境、社会情勢などを勘案した中で、課題解決に積極的に取り組んでいきます。

【推進テーマ】

安心して子育てできるまち

【重点課題】

安全・安心なまちづくり

近年、全国各地で発生している大規模な地震や集中豪雨、特に発生が予想される南関東での大地震などへの不安感が高まっています。
災害被害を最小限にいとめる減災事業の推進や消防体制、地域における防災体制の強化が求められています。

子育てしやすいまちづくり

少子高齢化が進展する中、次世代を担う子どもがいないまちには明るい未来は描けません。
子育て支援として行政ができる限りの対策を講じるとともに、少子化傾向に歯止めをかけていく必要があります。

人のつながりが広がるまちづくり

複雑化する地域課題の解決や多様化する社会サービスの需要には、行政だけで対応することは難しくなっています。
地域、企業、NPO、行政など多様な責任のある主体が、お互いの信頼のうえに協力・連携し、まちづくりに取り組むことが、今後さらに求められています。



【産業経済】多彩な産業が展開する 活力あるまち

Industry and economy

地域経済の基礎である地場産業の安定化を図るため、農林業の生産基盤の整備や沿岸漁業・栽培漁業の振興を図るほか、大型店と地域小売店とのバランスのとれた商業機能の集積を図ります。

第一次産業と歴史・文化や自然などの地域資源を活用した新たな滞在型観光の育成を図るほか、企業立地や中小企業の活性化を促進し、雇用の創出を図ります。



【基盤整備】

Infrastructure
Development

安全で快適な魅力あるまちづくりを進めるため、道路や河川、公園・緑地、情報通信基盤などの環境整備を推進します。

鉄道やバスなどの公共交通機関の利便性を高めるとともに、東京湾口道路の建設促進や首都圏第3空港の誘致に努めます。定住奨励金制度を創設し、定住人口減少の防止に努めます。



都市基盤が充実し 利便性の高い住環境のまち

INTERVIEW

鈴木 奈都美さん

富津で生まれ育ち、卒業後現在の会社に入社して旭ヶ浦事業所に配属されました。富津から出ることもなく旭ヶ浦まで通うこと10年あまり。その間に結婚して2児をもうけ、家事・子育て、仕事を両立してきました。

しかし、子どもが成長するにつれて時間をもっと大事にしたいと考えはじめると、通勤時間は大きな負担であり富津から出るか会社を辞めるか悩んだことがしばしばありました。

そんなとき、70年間操業していた羽田

工場が富津市に移転することとなり、運よく新富の新工場に勤務することに決まりました。事務所からは東京湾が一望でき、幼い頃の釣りや潮干狩り、海水浴などを楽しんだことを思い出しながら仕事に励んでいます。

子どもたちは富津の大自然に囲まれながら健やかに育っています。豊かな自然を守り、住みよい環境づくりのため、また21世紀の夢作りにつながるよう企業と地域の共存を進めていただきたいと思います。

INTERVIEW

渡辺 保さん

生まれ育った富津で生活して早50年あまりになります。

富津は、自然に恵まれ、気候も温暖で、生活するには最高の場所で、海産物や海苔は日本一だと思っています。

通信事業で働く私は、「人がいなければまちは出来ない。まちをつくるには人が必要。自分のまちが好きでなければ、人はずーっと住まない。まちに魅力がなければ出て行ってしまふ。」と教えられました。これが私の「ひとづくりとまちづくり」の考え方の原点です。

まちづくりにあたっては、通信網を整備することで人同士がコミュニケーションをとって

情報を共有できるようにする。

これによって行政、医療・介護、教育・子育てなどを充実させる。近い将来、家にいながら行政サービスを利用できる、かかりつけの医者に行くだけで専門医の診療がテレビ電話で受けられる、学校では子どもたちの個性に合ったきめ細かい授業が受けられる。そんなまちづくりを行っていききたい。

このまちが持続的に発展して子どもたちに明るい未来を残せるようみんなで協力し、安心・安全で住みよいまちにしたいです。最後に私は、この富津のまちが大好きです。

【生活環境】

Living Environment

自然と調和した 快適な生活環境のまち



豊かで安全な生活環境の実現のため、地域防災や消防体制の強化、地域と関係機関が一体となった交通安全教育の普及や防犯活動などを推進し、市民生活の向上及び安全確保に努めます。

ごみ・し尿の適正処理や上下水道の整備促進、自然環境の保全や公害防止等に努め、生活環境の向上を図ります。



【福祉保健】

Welfare and
Public Health

人々の心がふれあい 支えあうまち

子どもから高齢者まで市民が健康で安心した生活を営むため、地域ぐるみ福祉体制の展開を図るとともに、積極的な各種保健事業の展開と医療体制の充実に努めます。

仕事と子育ての両立支援を図るため、多様化する保育ニーズへの対応と地域全体で子育てを支える環境整備を行うとともに、男女共同参画社会の実現に向けた意識の啓発に取り組みます。



INTERVIEW

鈴木 俊夫さん

地元でクリーニング店を営み、自治会役員として地区防犯の視点から、平成18年に青木自治会パトロール隊を結成。

翌年には市内唯一の青灯パトロール車を購入しました。隊員は現在約50人で、自治会長をはじめ、自治会役員・OB、奉賛会会員・OB、消防団員などで構成されています。

毎夜7時から8時まで各隊員月2回程度の当番とし、1組3人でパトロールをしています。巡回中に防犯灯の点検なども行っています。自治会域にはイオンなどの大型

ショッピングセンターが変換も営業しているので、必ず周辺のパトロールをして子どもたちの安全をチェックしています。また富津警察署と連携したパトロールも実施しており、2度の署長表彰をいただいています。「継続は力なり」で今後も隊員一同が一体となって防犯に努めていきます。

緑あふれる大自然と、工業地帯が共存し、ますます期待が持てる富津市。子どもたちが安心して遊べる環境づくりに私たちも協力していきたいと思っています。

INTERVIEW

石原 良枝さん

「近ごろ、子どもの元気な声が聞こえないねえ…」そんな地域に住んでいる私。小学生のころにはたくさんの子もたちと思い切り外で遊んだことを懐かしく思います。近所の大人や年上の子たちにいろんな遊びやルールを教わり、みんなが顔の見える関係だったあの日。それがいつの間にか近所の子もたちが減り、外で遊んでいる姿を見なくなってしまいました。

一児の母となった現在、縁あって高齢

者福祉施設に勤務していますが、よくこんなことを考えます。『幼児、小・中学生からお年寄りまでが同じ屋根の下で一緒に過ごし、ふれあう場が実現できたらなあ…。』幅広い世代がともに生活できたらかたさんのことを学びあえるだろうなあ…。』そして、それをふっつとの魅力と感じる人たちがこの地へ来て、誰もが元気に暮らせる素敵なまちになることを願っています。

【教育文化】豊かな心を育む教育と文化の香るまち

Education and culture



市民の生涯にわたる学習ニーズに対応するため、その基礎づくりになる学校教育をはじめ、生涯学習機会や施設の充実、文化意識の高揚、国際交流などの施策を推進します。

本市の恵まれた歴史や文化に誇りをもてるよう、文化財の保存・活用に努めます。子どもから高齢者まで気軽にスポーツ・レクリエーションに親しめるよう環境整備に努めます。



【行財政】効率的な市政運営と市民参加をめざすまち

Fiscal Administration



多様な行政需要に応え、公正かつ健全な行政運営を堅持していくため、的確な財政見通しとコスト意識に基づき、より一層の市民サービスを目指し、効果的で効率的な行政運営を推進します。

市民と広く情報を共有し、市民の意見を積極的に聴くなど、開かれた市政を推進し、市民と行政の協働によるまちづくりを進めます。



INTERVIEW

平野 啓さん

今年6月1日にオープンした、青堀駅東口の「古墳の里ふれあい館」で、ガイドボランティアをしています。地元大堀に生まれて来年還暦を迎える私ですが、最近になって今まで忘れていた「昔の地元のいろんなこと」を再発見しつつあります。

職場を離れて10年あまり、その間は両親の介護や家事手伝いと多忙な毎日を送ってきました。そんな中、縁あって10年前に知人と「富津の会」を立ちあげ

ることになりました。そこでは東京湾を中心とした地方の歴史・民俗・自然などの様子を伝える生涯学習を行っており、私自身にとってもいい勉強になります。

「昔の地元のいろんなこと」を見たり、聞いたり、話したり、実際に行ってみたいと面白いものです。私がガイドをしている内裏塚古墳群は南関東最大級のもので、多くの人に訪れていただき、富津市の歴史をご紹介していきたいと思っています。



INTERVIEW

平島 光洋さん

富士山の雄大な姿がくっきり見える天気の良い日、昼休みに市庁舎の屋上から市内を眺めるのが私は好きです。北には青堀駅周辺の商業地域や新富の工業地帯、西には富津岬や大貫の漁師まち、南には東京湾観音やマザー牧場といった観光スポット、奥にはのどかな田園が広がっています。そんな表情豊かで「バラエティに富んだまち(ふつつ)」の市役所に入庁してから12年が経ち、現在は財政課に勤務しています。

財政課の仕事は、市民の皆さんから預かりた税金を、市の方針に基づいてどのように

お金を配分したら最適なかを考える部署です。家庭で例えるなら家計のやりくり役です。

また、配分したお金がどのように使われたかを市民の皆さんに報告したり、市全体の財政状況について、分かりやすく伝えることも大切な仕事の一つです。

これからも「富津市」に住む皆さんがふるさととして愛着が感じられるまちづくりを、そして、市外から訪れる方々に対してあたたかくおもてなしのできるまちづくりを市職員として使命感をもってお手伝いしていきます。

